

その18 岡・岡新町

(平成8年5月1日号—第181号)

枚方市の表玄関である枚方市駅、この周辺が今回紹介する岡と岡新町です。岡は、現在ではビオルネのある岡本町、百貨店や銀行が集まる岡東町、優美な塔を持つ教会が建つ岡南町、坊主池公園がある岡山手町の4つの町名に変わっています。また、岡新町は、新町1・2丁目と町名を変え、今では府住宅供給公社の団地やメセナひらかた等が建っています。



30 東見付(新町1丁目)

ところで、現在ビオルネの南館と北館の間にある歩行者専用道路は、以前、京街道と呼ばれていました。江戸時代、幕府は東海道の宿駅制度を定めました。京街道も東海道の延長とみなされ、街道沿いにある岡・岡新町・三矢・泥町の4カ村は、枚方宿に指定されました。明治になって宿駅制度が廃止されるまで、この一帯は大変なにぎわいを見せた町でした。

枚方宿は、岡新町東端の東見付[ひがしみつ

け](現在の新町1丁目)から西見付(現在の堤町西端)まで約1.5キロに及び、天保年間の記録によると、本陣や旅籠[はたご]を含め家数341軒、人口1,592人も大きな宿場町でした。

現在の枚方市駅周辺には、宿場町の面影はありませんが、岡本町の宗左[そうざ]の辻に立つ道標から当時の様子をしのぶことができます。宗左とは、江戸時代製油業を営んでいた角野宗左[かどのそうざ]のことで、宗左が住んでいた辻は、京街道と磐船街道の分岐点になっていました。

昔、京へ向かう旅人たちでにぎわった岡、岡新町は、現在も枚方市の中心地として、通勤・通学者が集中し、買い物客等にぎわっています。



31 宗左の辻に立つ道標(岡本町)